

美術講座

「対話型鑑賞ワークショップ」

対話型鑑賞を体験してみたい、対話型鑑賞のファシリテーターをやってみたという方を対象に、基本的な理論を紹介し、実際に作品の前で対話型鑑賞を体験するワークショップを行います。

日時 **10月26日** (土) 14:00～15:30

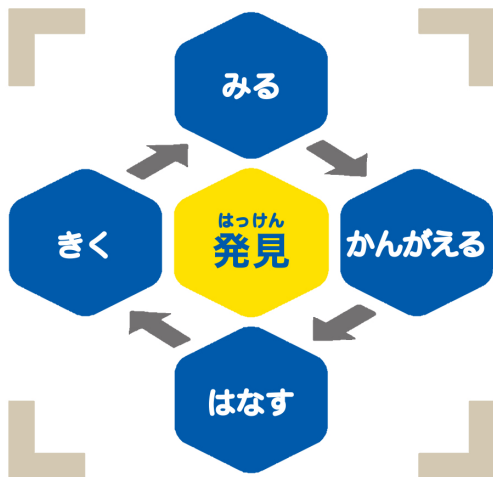
会場 奈良県立美術館 レクチャールーム (定員 15名、先着順)

対象 教師、学芸員など対話型鑑賞を体験してみたい方
ファシリテーターとして活動してみたい方

※事前要申し込み。
申し込み方法は美術館HPを
ご覧ください*



【対話型鑑賞とは】



対話型鑑賞とは作品についての情報や解釈を専門家や教師が一方向的に伝えるのではなく、鑑賞者自身の思いを尊重し、グループでの対話を通して作品を味わっていく鑑賞法。

参加者とファシリテーターがグループになり、「みる→かんがえる→はなす→きく」という行為を繰り返し作品から自分なりの「発見」をしていきます。

【講座の流れ】

- ①「対話型鑑賞とは何か？」
－理論や方法論を解説します。
- ②「対話型鑑賞を体験してみよう！」
－展示室で対話型鑑賞を実践します。
- ③「対話型鑑賞のファシリテーションについて」
－体験を参加者で振り返ります。

【対話型鑑賞ファシリテーターとは】

対話型鑑賞において、参加者の思いや考えを受け止め整理する進行役です。参加者の思いを引き出して言葉にすることを手助けします。

【講師紹介】

山本雅美 (奈良県立美術館学芸課長)

これまで美術館学芸員として、東京都現代美術館や船橋市民ギャラリーでの展覧会や教育プログラムを通して鑑賞教育に携わる。船橋市における対話型鑑賞教育推進事業 船橋市民ギャラリーの対話型鑑賞教室(2022～23年)などを企画し、対話型鑑賞のファシリテーターの養成に携わる。

【開催中の展覧会】

「エドワード・ゴッリーを巡る旅」展
2024年9月13日～11月9日
アメリカの絵本作家の原画展



『狂瀾怒濤：あるいはブラックドール騒動』1986年